始

篇二廿第書叢科百用實友社

良人選擇の秘訣百條

行發及輯編 社友之婦主 臺河駿京東

特220
342

主婦之友實用百科叢書

第二十三篇

良人選擇の祕訣百ケ條

發行所　東京市駿河臺　主婦之友社

昭和三年
内務文庫

半襟一掛買ふにも、婦人は血眼のやうになつて選びます。それにも拘らず、一生にたつた一度の良人選びには、割合に無關心で他人任せにする婦人の氣持は、不思議なことの一つであります。家庭の紛爭が後日に至つて生じ易いのは最初の選擇をゆるがせにするからであります。本書に掲げた百ケ條は、未婚の處女のために、男子といふものを鑑別する標準とするに足ると思ひます。半襟を選ぶには半襟の知識が必要です。良人選擇の知識を授くるものは、此の書でございます。本書の筆者を祕密にしたことをお許しください。

『主婦之友實用百科叢書』の編輯發行に就て

◇私どもが生きてゆくためには多くの知識を必要とします。その知識を得るためには、どうしても書籍に就かねばなりませぬ。ところが、これまでの書籍は一つの必要な知識を得るために、多くの不必要なことまで讀まねばなりませぬ。それは忙しい生活の今日、多くの人には許されないことであります。

◇生活上必要な知識を、確實に、そして手取り早く得る方法として、『主婦之友實用百科叢書』の編輯發行を企てました。この叢書は婦人や家庭の生活に、缺くことのできぬ實際的知識を雜誌『主婦之友』の編輯と同じやうに、確實、親切、簡單を旨として、提供することにつとめました。

◇從來の書籍に、も一つの缺點がありとすれば、それは定價の高いといふことであります。この叢書は、それらの方面にも幾分の改良を施し、一冊六拾錢でわかつことにいたしました。この叢書の一冊でも御覽になつた方で、もし私共と御同感の方がございましたら、この叢書を一冊でも多く御覽のうへ、この叢書の目的の達成に御盡力のほどをお願ひ申します。

昭和二年二月二十三日　　主婦之友社編輯局にて　　石川武美

第一條　愛人必ずしも良人として理想的と限らず

愛人として、たまに接してゐるだけには、まことに理想的であつても、良人として家庭の義務に堪へぬ男子が少くない。世間知らずのお嬢さんには、その判斷はつきかねる。愛人を良人として、よき『伉儷』よと羨まれた婦人が、後で涙の生涯を送ることの如何に多きことか。良人は愛人であると共に、良き家庭人であらねばならぬ。

第二條　遠慮氣兼のいる人を良人として選ぶ勿れ

結婚は見合の日の如く、一寸見てすぐわかれることのできるものではない。故に遠慮や氣兼のいる、生涯帽子の如く戴いて行かねばならぬ男子を、良人として選んではたまらぬ。途中で退屈するにきまつてゐる。上流家庭に於て、妻が不仕鱈を犯すのも、多くはこのためである。『似たもの夫婦』とは、この意味に於て忘れてはならぬ。

第三條　無造作に結婚を申込む男子を信ずる勿れ

結婚の申込は男子の方からすべき習慣とはいへ、相知ることの淺いとき、お世辭代りに結婚の申込をするやうな男子は、どうせ結婚の義務を途中で棄てることも、お手輕なものにきまつてゐる。こんな男子は、申込を斷られても、それを恥とも心得ぬ連中である。當世流の輕薄紳士に、この種のものがあるから油斷はならぬ。

第四條　氣の毒だからとて同情的に結婚すべからず

同情心は、婦人の寶である。けれども結婚は同情でなすべきものでない。『結婚してあの人を救つてあげる』といふけれど、結婚生活の内容は、それを許さぬ。最初から同情的立場に立つて結婚に臨むのは、結婚を友人關係と考へてゐるからである。如何なる場合でも夫婦五分々々の立場にあつてこそ、結婚は初めて幸福である。

第五條　脛囓りの獨立不能の男と結婚する勿れ

たとひ親の脛が囓るに適當した大きいものであつても、結婚年齢に達してまで獨立のできぬ男子は、意氣地なしか、怠け者か、生活能力の缺けた者か、とにかく良人として仕へるに足る人でない。親の財産を當にせぬくらゐの、男らしい男こそ、生涯を偕にし得る人である。『初吉終凶』の夫婦は、この種の男子に嫁した婦人に多い。

第六條　苦勞知らずの坊ちやんと結婚すべからず

世の中で始末にをへぬものは、苦勞知らずのお坊ちやんである。順境の日には、觀兵式の兵隊さんくらゐの役には立つが、一朝悲境に立てば、から役にたゝぬ。盛んであつた結婚式の日をせめてもの想出に慰むやうな、果敢なき老後を送る覺悟のない限り、こんな男子を振り向いてはならぬ。お坊ちやんに結婚生活の義務は重すぎる。

第七條　露骨に愛を訴へる男子に油斷する勿れ

男といふものを知らぬ處女は、『私はあなたを熱愛します』などゝ言へば、直ぐ眞正直にそれを信じてしまふ。こんな男は、『あなた』以外の幾多の婦人にも、同じ調子で言ひ寄つてゐる。浮氣男の證據である。男が眞劍に愛するならば、さう輕率には訴へられぬ。男の言葉を信じてはならぬ。男の行爲を、靜かに觀て判斷せねばならぬ。

第八條　キザな男子を良人として選擇すべからず

物識り顔をしたり、ハイカラぶつたりするキザ男ほど、人に嫌はれるものはない。『人に好かれなくとも、私が好けば勝手だ』といへばそれまでだが、さうとばかり行きかねるのが浮世の常。人に好かれず、人に用ひられぬ良人に嫁して、どこに妻の幸福があらう。蓼食ふ蟲の譬へはあつても、キザ男を良人に持つてはならぬ。

第九條　ネクタイに凝る男は浮氣者の證である

時代おくれのネクタイが、氣にもとまらぬほど超時代的の男子でも困る。もつと困るのは餘りにネクタイに凝りすぎる男子である。かういふ男子は、餘りに神經質すぎて、妻の缺點をも容赦せぬやかまし屋である。のみならず、ネクタイが常に變るやうに氣心にむらがある。一人の妻に滿足のできぬ男も、この種の人に多い。

第十條　贈物で歡心を買ふ男子を信用すべからず

手ぶらでは決して人を訪問せぬ男子は、他人に對しては如才がなくとも、家人に對しては親切だと限らぬ。未婚時代に無暗に贈物をよこす男子は、一旦結婚したが最期、忽ち豹變して、必要なものさへよこさぬ良人となつてしまふ。策略からの親切は永續きがせぬ。それに心を許して結婚でもすれば、その結果は恐しいことである。

第十一條　自家廣告の上手な男子と結婚する勿れ

自家廣告の男子は、世事に疎い婦人を籠絡することには必ず成功する。『三國一の婿料こそこの人だ』と感心させることができる。けれども、とかく宣傳ほどでないのが世の常で、やがて妻をして失望落膽させるのは、この種の自家廣告者である。自分の口で、自分を廣告する男に、心を許してはならぬ。まして身を委せてはならぬ。

第十二條　結婚後の幸福を豫約する男を信ずる勿れ

『私と結婚してくだされば、どんな幸福にでもさせてあげる』などゝ、當にもならぬことを當にして、幸福の豫約をする男子ほど、信用できないものはない。いつでも妻の幸福を犧牲にして、自分の幸福を求めかねない、圖々しい男である。結婚は男女共同の責任で築きあげるもので、男にそんな豫約をする力のあるべきものでない。

第十三條　貯金の準備をせぬ男子と結婚する勿れ

貯金の準備なき男子は、利己一天張りの人間である。家庭の主人として、妻や子を路頭に迷はしても、やむを得ないくらゐのことに考へてゐる、無責任極まる男である。こんな男と結婚すれば、後日必ず金錢上に於て苦しまねばならぬ。貯金の多少ではない。彼がどれだけ克己して貯金するかゞ問題である。親譲りの貯金は論外である。

第十四條　結婚費用を自辨せぬ男子と結婚する勿れ

結婚は自分のための、家庭建設の第一歩である。その大事な首途に當り、他のお世話になるやうな、そんな意氣地なしと結婚してはならぬ。自立のほかなき男でありながら、結婚費用を他に融通して貰ふなどは、生活不能の人間である。親の財産を當にして結婚するごときも、至當ではない。結婚費用は自分の力で用意すべきである。

第十五條　結婚日を急き立てる男子と結婚する勿れ

一日も早く理想の家庭を作りたいとは、無理からぬ希望である。けれども、結婚は一生の大事業である。大事業を前にしながら、先を急ぐことは、眞の意味に於て家庭生活の自覺なき男子である。彼は結婚生活に於て、性的生活のほかに重大意義を知らないのである。大事の前の自重を缺くやうな、そんな男子を良人としてはならぬ。

第十六條　結婚前に不謹慎なる男子と結婚する勿れ

結婚後妻を惱ます男子は、結婚前に於て不謹慎であつた男子に限る。『三つ子の魂は百まで』といふが、一人の婦人に不謹慎な男子は、他の婦人にも不謹慎である。故に新妻への興味の薄らぐとき、彼は必ず妻以外の婦人に興味をもつ。その鑑別法は、結婚前に自分への不謹慎の有無である。『私を愛するための行爲』など、自惚れてはならぬ。

第十七條　泥靴で平氣なやうな男子と結婚する勿れ

泥靴で平氣な男子を、『淡泊な紳士』など、いゝ方に誤解してはならぬ。泥靴紳士がよく眼にうつるのは、結婚前後の當座に限る。かういふ無精者の良人が、自分の家庭をも、自分の仕事をも、泥靴のやうなものにしてしまふことに、直ぐ愛想が盡きてしまふ筈である。自分の身の廻りを、小ざつぱりとできぬ男子を信じてはならぬ。

第十八條　借金を恥辱と思はぬ男子と結婚する勿れ

獨立の生活を望む男子は、他から借金することを決して快しとする筈はない。借金は男子の恥辱である。借金を恐れざる男子は、一家の主人となつても、絶えず家族に經濟上の不安を與へるにきまつてゐる。收賄などして身の破滅を見るのも、借金を恥辱とも思はぬ人の末路である。かういふ男子と、夢にも夫婦となつては不幸である。

第十九條　女らしい男と結婚する勿れ

夫婦は陰と陽とが合して、初めて幸福な家庭となることができる。それには、良人はどこまでも男らしく、妻はどこまでも女らしい性格のものであらねばならぬ。優しい女らしい男子は、妻を親切にいたはつてくれると、思つたら大違ひである。女性的男子は、女性の缺點だけで、弱き妻子をかき抱くほどの、男性的の強さはない。

第二十條　先輩に尊敬を拂はぬ男子と結婚する勿れ

尊敬すべき先輩を呼び捨てにして、さも得意氣の男子がある。或は教へを受けた先生を、さも同僚か何ぞのやうに呼び捨てにして威張る男子がある。無論、彼等は面と向つてゞはない。陰辨慶である。こんな男子こそ卑怯漢の骨頂で、信賴に値せぬものである。ひそかなる所に於ても、先輩を尊敬する人こそ、良人にもちたい男子である。

第廿一條　親の金を當にする男子と結婚する勿れ

親の金で贅澤する男は、男のうちで一番の意氣地なしである。そんな男は、音樂會や芝居見物の伴には向くが、一生の連合としては落第坊だ。親の金を多く使つた男は、その罰として老後に及んで苦勞せねばならぬ。また自分の子供を育てるに及んで、途方に暮れねばならぬ。有つても當にせぬくらゐの男子なら、身を委せても悔はない。

第廿二條　親を大事にせぬ男子と結婚する勿れ

親の脛を嚙りながらも、親を粗末にする男がある。また養つてさへやれば、それでよいやうに親を粗略にする男がある。親よりも戀人を大切にする男がある。『親を棄てゝも私を愛する賴もしい人だ』などゝ、自惚れてはならぬ。そんな道知らずの男は、妻を棄てゝ顧みぬ無情の良人になるにきまつてゐる。良人に棄てられた妻は、皆この經驗をもつ。

第廿三條　兄弟の面倒を見ぬ男子と結婚する勿れ

『私はひとりものだから、私と結婚すれば家庭の煩ひがない』などといふ男の煽てに乘つてはならぬ。自分が面倒を見ねばならぬ兄弟を拋棄つておいて、自分ひとりが氣樂に生活する利己的な男が隨分多い。兄弟はおろか、他人の面倒まで見てやるくらゐの義俠的男子でない限り、世に立つて大成する人でない。樂を求めてはならぬ。

第廿四條　良き友達をもたぬ男子と結婚する勿れ

『人は朋友の善惡によつて知る』といふ。餘り古い諺ではあるが、この諺の不用になるときはない。良き友達を持たぬ人は、その平生が察せられる。惡友と平氣で交る人は、どこかそれに共鳴するものを、自らのうちにもつからである。男の口からの出任せを信ぜずに、ソッと友達を鑑別すると、男の化の皮がすぐわかる。

第廿五條　良き先輩をもたぬ男子と結婚する勿れ

朋友の如何が、その人の過去を物語るごとく、先輩の如何は、その人の將來を暗示するものである。どんな卑賤に生立つても、よき先輩は心掛によつて得られるものである。良き先輩から信用される男子を選ぶことは、結婚の幸福保險に加入すると同じ安全さである。繰り返していふが、それは不良先輩でなく、優良先輩のことである。

第廿六條　家庭に無理解な男子と結婚する勿れ

家庭に無理解な男子と結婚することは、二人分の重荷を一人で背負はされるやうなものである。力の強い婦人、即ち餘程の賢い人でゞもあればともかく、さうでない限りは途中で行倒になつてしまふ。そんな冒險は初めからせぬがよい。それよりも、家庭に理解のふかい、家庭的の男子と結婚することが、身の安全、家の安全である。

第廿七條　女友達の多い男子と結婚する勿れ

女の友達の全然ないのも困るが、さりとて女友達を多くもつ男子は、餘程の警戒者である。普通の男子には、女友達を多くもつべき必要もなければ、それに交つてゆく暇もない筈。それを、交つてゆくには、彼に恐るべき性格がある筈である。そんな男子と一緒になれば、一生をそのための不安で過さねばならぬ。厭なことだ。

第廿八條　不健康な男子と結婚する勿れ

弱い體質の良人を、妻の親切で看護することは、想像しても氣持ちのよい、美しい行爲である。といつて結婚の最初から懸念されるやうな不健康者は、良人として選擇すべきものではない。『健康』は、幸福なる結婚生活の必要條件である。不健康の男子を婦人が選擇せぬならば、青年はきつと健康に努力するやうになるに違ひない。

第廿九條　野鄙な趣味の男子と結婚する勿れ

婦人がさうであるやうに、男子にも思ひがけぬ野鄙な人間があるもの。表面では高尚ぶつてゐても、裏面では極端な下鄙た趣味を包み隠してゐるのがある。家庭をもちながら、隠れた遊びにふけるのもこのためである。男子の不品行は野鄙な趣味の滿足から來るものが多い。結婚前に看破せぬと、一身一家を犧牲にしてしまふ。

第三十條　大酒飲みの男子と結婚する勿れ

酒は罪惡ではないかも知れぬが、飲酒家は罪惡に陷り易い。酒と罪惡は同居するものである。まして大酒飲みほど、過を犯し易いものはない。大酒家と結婚することは、不運と連添ふやうなものである。大酒飲みの惡遺傳は、子孫を亡すに充分である。家を飲み、妻を飲むくらゐで止まるべきでない。夢にも大酒飲みに嫁してはならぬ。

第卅一條　理想の低い男子と結婚する勿れ

『蟹は己が甲羅に從つて穴を掘る』と言ふ。人は理想の高下に從つて生涯の價値がきまる。『どうせ私なんか』と、自ら低きを以て滿足する人の生涯は、知れたものである。理想が高ければ、それに伴ふ覺悟と努力とが備るものである。かくて新運命を開拓することができる。藤吉郎を良人に選んだおねゝさんの眼識は、流石に高くあつた。

第卅二條　向上心の乏しい男子を良人に選ぶ勿れ

氣の脱けたビールと向上心の乏しい男子ほど張合のないものはない。向上心を失つた男子は、齒止めを無くした車のやうなもので、後しざりのほかはない。一寸見には立派さうであつても、内に向上心の無い男子は少くない。卒業と同時に向上心を、校門に棄てゝ來る青年さへある。こんな男子を良人にもつた妻の運命は、哀れなものである。

第卅三條　本代の支拂の少い男子を良人に選ぶ勿れ

その人の金錢出入帳を見れば、その運命を豫言することができる。もし支拂金の中に知識の糧たる本代の項目がないやうだつたら、そんな男子に未練をかけてはならぬ。本代を支出せぬ男子は、カフェーや料理屋の支拂がきつと多いにきまつてゐる。本代といつても、娯樂のための小説本は論外であることを知つておかねばならぬ。

第卅四條　信仰心の無い男子を良人に選ぶ勿れ

油のきれた機械が破損し易いやうに、信仰心の無い人の生活も破壊し易いものである。苦しいときの神頼みで、信仰は非常の場合に必要なやうに、平穏無事な日にも必要である。信仰のない夫婦生活は、傷き易い。信仰のない家庭生活は、波風が立ち易い。一身一家の安全のために、結婚の條件に『信仰心』を入れておけば大安心である。

第卅五條　奉仕心の無い男子を良人に選ぶ勿れ

戀人として、自分ひとりに奉仕してくれさへすれば、それで滿足だなどゝ思つてはならぬ。人のために世のために身を忘れて奉仕する人でなければ、男らしい男とは申せぬ。奉仕の精神があればこそ、妻子のためにもよく盡してくれるのである。奉仕の心のない男の、女への親切ほど當にならぬものはない。女を手に入れるまでの手段にすぎぬ。

第卅六條　利己心の強い男子を良人に選ぶ勿れ

親であることも良人であることも忘れて、自分ひとりの利益だけ圖る男子が少くない。こんな男を良人としたが最期、妻子の浮び出る日は何時になつても訪れはせぬ。子としての義務に服してゐるか、社會人としての責任を盡してゐるか、それによつて利己心の如何を鑑別することができる。甘い口先だけで、男を信じたら必ず大失敗。

第卅七條　尻の落ちつかぬ男子を良人に選ぶ勿れ

あつちの役所に二年、こつちの會社に三年と、一ケ所に尻の落ちつかぬ男子に、警戒を怠つてはならぬ。本人に言はすれば、充分の理由があらう。けれども、物に厭き易い、辛抱力の弱い人であることは爭はれぬ。彼は苦しい場合には、良人としての責任からでも、逃げ腰になりかねまじき男である。恐れ遠ざくべきは、この種の男である。

第卅八條　反逆氣の多い男子を良人に選ぶ勿れ

男子の獨立心は尊ぶべきものである。ところが、獨立心に似て非なるものに反逆氣がある。親に對し、先輩に對し、社會に對して、反逆氣の多い人の末路ほど恐いものはない。光秀の末路を擧げるまでもなく、恐ろしいことである。多少の才能はあつても、反逆氣のある男子を良人にもつてはならぬ。反逆で成功した人は一人もない。

第卅九條　人に愛されぬ男子を良人に選ぶ勿れ

『蓼食ふ蟲も好き不好き』といふが、それにしても、人に愛されぬ人を、良人にもつべきでない。一人や二人ならともかく、誰の目にも愛せられぬ人がある。さういふ男子には、どこか人に嫌はるゝ缺點があるに違ひない。一時の感情はさういふ男子をも愛して見たくもあらうが、所詮夫婦として苦勞を分つことのできる筈がない。

第四十條　年齢の違ひ過ぎる男子を良人に選ぶ勿れ

縁は異なもので、親と子はおろか、祖父と孫ほどの相違があつても、夫婦となる場合がある。と言つて、それは幸福な夫婦の常態ではない。自分のために、子孫のために、餘り年齢の違ひ過ぎるのは避けねばならぬ。生活の安全と、社會的名譽のために、若き婦人が地位を有する既成男子と結婚することは、安全さうで大不安の極である。

第四十一條　女に目移りする良人を持つ可らず

結婚前の婦人が、異性さへ見れば、それがすべて自分に興味をもつものと、自惚と早合點とをするやうに、男子もまた同じことである。けれども、結婚したが最期、そんな遺傳的浮氣心は、さらりと捨つべきである。見るほどの女に、片つぱしから目移りのするやうな男子に、決して氣を許してはならぬ。まして、身を許してなるものか。

第四十二條　御機嫌取りの良人を持つ可らず

男の癖にと言ひたいほど、御機嫌取りのうまい男子が、今の世にはざらにある。それがまた未婚の處女の周圍に、むらがるものである。彼等はまんまと、その常套手段で多くの婦人を手中に丸めこむ。けれども、この手段は必ず他の婦人にも應用されて、次から次へと御機嫌取りで誘惑する。恰も花から花を詒き廻る浮氣胡蝶のやうに。

第四十三條　怒りつぽい良人を持つ可らず

『三つ子の魂は百まで』とか、その眞理に間違ひはない。金持ちだからとか、高等官だからとか、そんなことにのみ目を奪はれて、怒りつぽい短氣男でも摑まうものなら、生涯うかぶ瀬もない苦しみである。處女に近づく男子は、皆んなが皆んな優雅な紳士を裝うてゐるから、眞相の看破に骨が折れる。決して見たまゝに信ぜぬことだ。

第四十四條　同情心に訴へる男子に許す可らず

一人の男が女を得んために廻らす智慧には、限りがない。彼等はどんな手段でも講じかねぬ。靴の紐を解くくらゐの奉仕はお茶の子である。彼等の常套手段は『……私を救ふと思うて結婚してください』といふ。これは紋切型だ。こんな男の手に乗つて、救ふつもりで結婚でもすれば、一生浮べない哀れな女に陥ちてしまふ。

第四十五條　地位やお金を誇る良人を持つ可らず

世の中に當になるものは少いが、その中でも地位とお金ほど不確實なものはない。何時どうなるか知れたものでない。のに拘らず、それを當にして、誇りにする男子は、常識のどこかに缺陷がある。こんな馬鹿者はない筈だが、若しあつたら信じてはならぬ。まして、こんな男を良人などに選んだら、婦人一生の不覺である。

第四十六條　芝居や音樂會に度々誘ふ男子と結婚す可らず

若い時に享樂しすぎた夫婦は、老後に至つて苦しまねばならぬ。婚約時代に遊びすぎた男女は、家庭生活に入つて直ぐ倦怠を生ずる。末を思へば、やれ芝居、やれ音樂會と、さう無暗に行けるものでない。それを知らずに、婚約時代に矢鱈、享樂の巷に誘ふ男子を信じたら最期。妻を生活の不安に置去るのはこの種の男子だ。

第四十七條　子供に對する理想なき良人を持つ可らず

『あなたは、子供に對して、どんな理想をおもちですか』と訊けば結婚前の男子は概ね落第である。人の親としての責任も、理想も、持ち合せぬ、家庭生活の落第坊を良人にもつ婦人の、苦勞のほどは、考へたゞけでも空恐しい。ところが、この唯一の試驗問題で、未來の良人を、試みるだけの處女のゐないことは、男子にとりての大助りであらう。

第四十八條　貧乏を苦にする良人を持つ可らず

貧乏は苦しいことである。けれども若い人には貧乏が苦になるやうではならぬ。貧乏の棒を振り廻して、自分の新運命を開拓するだけの、燃ゆるが如き功名心があるべきだ。『私なんか家が貧しいので……』などゝ、それは青年男子の口から出づべき言葉ではない。そんな意氣地なしの男子は、獨身で苦しませた方が慈悲である。

第四十九條　自分の地位に不滿を懷く良人を持つ可らず

自分の地位の低いのを、上役の無理解に歸したり、社會組織の不完全のためと諦めずに、勤勉と努力で地位を得てほしいものである。低い地位に不平をもつ人よりも、低い地位に在りて懸命の努力をする人の方が、未來の良人としては、どんなに頼しいか知れぬ。低い地位は高い地位に至る出發點ではないか。

第五十條　女で失敗した良人を持つ可らず

前科者は、どこに行つても、注意人物とされる。それが當然である。良人として選ぶ場合に、男女問題の前科者だけは避けたがよい。妻に前科を許す雅量があつたとしても、良人には再び失敗を繰り返す素質がある。前科者でも、別人のやうに悔い改まつてゐる者もあるが、それは論外、一般的には、避けて選ばぬが身の幸福である。

第五十一條　兄弟に不良者のある男と結婚す可らず

愛の對象は一人の良人であるから、兄弟などは、どうでもよいやうなものゝ、結婚した後で、泣かずにすむことに泣かされるのは、その兄弟のうちに不良者のある場合である。血統の悪いどころの騒ぎではない。血統の詮索に血眼になりながら、兄弟の人物性行に意を用ひぬ、婿さがし嫁さがしほど、劍呑至極なことはない。

第五十二條　惡い家庭の男と結婚す可らず

戀人同志である間は、家庭などは問題にならぬかも知れぬ。ばかりでなく、家庭はむしろ邪魔である。ところが一旦結婚すれば、もう家庭生活の約束にしばられてしまふ。その時になつて狼狽しても追ひつかぬのは、惡い家庭に育つた男子と結婚した婦人の苦みである。如何に戀に熱中しても、惡い家庭に育つた人だけは避けねばならぬ。

第五十三條　嫉妬心の強い男と結婚す可らず

『悋氣は女の愼むもの』と昔から誡められてゐるが、悋氣は、ひとり女ばかりの缺點ではない。男の嫉妬も女に讓らぬものがある。嫉妬を以て愛情のバロメーターと心得てゐるだけの悟りでもあればともかく、凡人仲間では、餘り嫉妬ぶかくない良人を選ぶべきである。可愛さ餘つての憎さであらうとも、病的嫉妬は桑原々々。

第五十四條　弱年の男子と結婚す可らず

お金持や貴族仲間の、飯事家庭ならばともかく、然らざる家庭に於て、餘り若過ぎる男子を良人とすることは、決して幸福なものではない。浮世の暴風は、彼等の愛の巣を吹きとばしてしまふであらう。生活能力の不充分な、まだ喙の黄色い父や母が、再び巣を營むこともできず、うろ〳〵してゐるのが、そこいらに澤山ある筈。

第五十五條　年下の男子と結婚す可らず

年下の若い男子を、良人にしてはならぬ。お金持の未亡人が燕のごとくいとしむのなら別のこと、正しい家庭には眞似られぬことである。妻が一家の采配を振ることは變則だ。一家の全責任とまではゆかずとも、重い責任に堪へてゆくには、若い燕の良人では間に合はぬ。弟が良人の間に合はぬことも、わかりきつた話だ。

第五十六條　女を奴隷視する男と結婚す可らず

女を下等視し、奴隷視することを、男の特權の如く思ふわからず屋が、今の知識階級の間にも少くない。妻が良人に仕へるのは奴隷としてゞはない。對等の關係に立つての奉仕である。それだけに、尊敬に値する。この道理さへわからずに、空威張りに威張りちらす男を、良人などに持つてはならぬ。身のためにも、兒のためにも不幸だ。

第五十七條　結婚を人任せにする男と結婚す可らず

自分の着る洋服さへ、服屋に寸法をとらせて作る男が、妻を選ぶに人任せにさせておかるべき筈がない。筈がないのに、人任せにする男がある。『親さへよければ私はどうでも』などゝ、そんな見當違ひの孝行はない。一たい親はいつまで生きてをられるものか。こんな無責任な男に限つて、親の選擇を楯に、妻の離緣ぐらゐはお茶の子だ。

第五十八條　結婚を内密にする男と結婚す可らず

結婚は公の事實である。それにも拘らず、とかく結婚を祕密に行ふ男女が多い。世間にコッソリ祕密に結ばれた男女の家庭は、後日に至つて、とかく破綻し易いものである。大袈裟にやる必要はないが、質素でも、公の事實として結婚擧式をすべきである。それを好まぬ男子は、家庭に誠意なき者として避けたがよい。

第五十九條　若い妻を持ちたがる男と結婚す可らず

男の奇病のうちで、原因不明の奇病は、年甲斐もなく若い女を妻に持ちたがることである。病氣でゞもなければ、こんな馬鹿氣たことはあり得ない。若き淀君を妻にした、秀吉を筆頭に、この種の男の終りは、家庭的に不幸であつた。それは今日も同じことである。そんな男と不幸の道行を偕にせぬやうに、若き婦人の警戒が必要だ。

第六十條　賞與を着物に換へる男と結婚す可らず

女だけが虚榮ではない。男の中にも虚榮家が多い。平常の收入は、食ふことゝ飲むことに費ひ果し、年末の賞與金を着物に換へてしまふやうな、家庭の將來を少しも念頭に置かぬものが多い。かういふ男と世帶をもてば、何時になつても、貧乏神の氏子から免れ出ることはできぬ。月賦で美服を着る男に至つては沙汰の限りだ。

第六十一條　爪の掃除を怠る男と結婚す可らず

『爪の垢ほど』と、とかく小きことの代表とされてゐる爪垢が、黒くたまつてゐるやうな男と、決して結婚すべきでない。彼は無精者の骨頂である。かくのごとき男と結婚すれば、家庭の責任は、常に妻が負はねばならぬ。また家を外に遊び歩くことも、この種の男子の常である。第一、夫婦喧嘩の時にも、搔破られる心配がある。

第六十二條　新しい持物を喜ぶ男と結婚す可らず

男の癖に、とかく新しい流行物を持ちたがるものがある。まるで、デパートの飾人形氣取の男子がある。かくのごとき男子は、如才がなくて女好きのするものだが、良人には不向き。第一、家賃や米代を犠牲にしても、流行物を買ひたがるものである。ばかりでなく、妻さへも、新しいのに取換へがちの危險人物である。

第六十三條　流行のモデル氣取の男と結婚す可らず

身につける物一切が、流行ものづくめであるのは勿論、語ることも見ることも、流行一點張りの男がある。思想も流行物に奔り、宗教まで流行の後を追ふ男がある。哀れなるかなこの種の男子は、いつか流行疲れをして、社會の片隅に取り殘されてしまふ。流行に左右されぬ、個性を持して立つ、雄々しき男子こそ、好ましい良人である。

第六十四條　生活費の三割以上を家賃に拂ふ男と結婚す可らず

大い家に住めば、多くの金が這ひ出すことになる。一家經營上、劍呑この上なきことだ。まして新家庭の初から、生活費の三割以上を家賃に投ずるやうな、山勘的な男の將來は恐るべきものがある。身分不相應な家に住む男は、警戒ものだ。家が立派だから懷工合もよいだらうなどゝ、見誤つて良人にでもしたら一生の不覺である。

第六十五條　借金を恐れない男と結婚す可らず

借金ほど恐しいものはない。折角の清節幾十年が、晩年に及んで穢されるのも、多くは借金のためである。その理由の如何は問はぬ。借金は、すべての場合に恐るべきである。然るに借金を恐れぬ男が世の中にはある。婚禮の費用を借りて拂はぬ横着者さへある。やがて愛する妻子を路頭に迷はすのも、この種の男である。

第六十六條　收入の少いのを辯解する男と結婚す可らず

最初から和尚はない筈。收入も初から多くないのが道理。手腕や技倆が劣れば尚ほさら少いのが當然である。然るを、收入の少いのを恥辱の如く考へて、辯解がましく言ふ男は、意氣地無しでなければ虚榮家だ。こんな男は、細君の手前萬引でもする馬鹿者と兄弟分だ。『あなたの御收入は』と訊いて見れば、人物鑑別は至極簡單だ。

第六十七條　收支を明細にせぬ男と結婚す可らず

學校の成績を見ずとも、現在の地位を知らずとも、其の人の金錢出納簿を見れば、その將來を豫言することができる。それほど、金錢の收支は人物を說明するものである。一錢たりとも不正の收入なく、一厘たりとも浪費せぬ男子こそ、婦人が一身を委すに足る人である。それを知る方法は、金錢收支の明細のみである。

第六十八條　妻の持參金を當にする男と結婚す可らず

金が有餘るなら、持參金として嫁すもよからう。けれども、それを當にするやうな男の許に行つてはならぬ。妻の持參金は良人を放蕩者にしてしまふか、さもなければ愛兒を不良少女か少年に仕立て上げるが關の山。社交に慣れた青年で、持參金づきの美しい妻を、鵜の目鷹の目で探してゐるものが多い。金持の令孃は御用心。

第六十九條　享樂に時間を使ひ過ぎる男と結婚す可らず

今の學生には遊ぶ時間が與へられすぎてゐる。故に學校生活を送つてきた青年は、遊ぶことにかけては既に一廉の大家となつてゐる。球も撞けば碁も鬪はす。芝居にも行けば、映畫や音樂の會にも行く。ボールも樂しめば、登山や水泳もやる。カルタも弄べば、カフェー通ひもする。彼等は生活戰に必要な實力の備なきには、氣がつかぬ。

第七十條　友人の多過ぎる男と結婚す可らず

山高きが故に貴からずとせば、友も多きが故に誇とすべきでない。良友は決して多き筈がない。質を選ばぬ友なればこそ多いのである。友を選んで交ることをせぬ男子の將來は、決して安心されるものでない。景氣のよい時だけ顏を出して、少し景氣が惡くなれば寄りつきもしなくなる。『あの人は交際家だ』などゝ信用したら大事だ。

第七十一條　時間を守らぬ男と結婚す可らず

秤にかけて物の重さを見るやうに、良人とすべき男子の人柄は、その人が時間を守ることに確實であるや否やで判斷される。他と約束しておきながら、『あなたの側から去るのが辛い』などと、約束の時間を平氣で破るやうな男を、自分を深く愛する人だと信じたら大失敗だ。斯くの如き男子は、神前の契りをも破約しかねぬ不確實者である。

第七十二條　嘘をつく男と結婚す可らず

嘘つき男ほど不安なものはない。たとひ、どんな小なことであらうとも、嘘をついた人だとわかつたら、決して信じてはならぬ。口から出まかせを言ふ男子の手には、大抵の婦人は籠絡されてしまふ。一時に三人も四人も、戀人をもつことさへできるほど、男は大膽に嘘の言へるものだ。彼等を信ずるのは、信じた方の罪である。

第七十三條　神經過敏な男と結婚す可らず

女の神經過敏が困るやうに、男の神經過敏も困るものだ。殊に病氣について神經の過敏な男子を良人にもてば、それで一生涯は浮ばれぬものと覺悟してもよい。病氣の脅威で、安き日は一日だつて、ありつこはない。この種の男子は、學問があつて、品行が方正で、前途有望な青年の間に、特に多くあることを序に御注意申す。

第七十四條　賭事を好む男と結婚す可らず

男子の惡德のうちで、賭事ぐらゐ惡いものはあるまい。賭事に興味のある間、どうせ眞面目な世渡りはできない。彼等は、人生のすべてを、丁か半かで解決しようとする。ばかりでなく、コツ〳〵働く眞面目な働きが、馬鹿らしくて仕方がない。株や米の投機に熱中する人々も、警戒を要する此の仲間の人なることは勿論である。

第七十五條　仕事を輕蔑する男と結婚す可らず

世の中で悧巧さうで大馬鹿の見本は、自分の仕事を尊敬せぬ連中である。彼等は口癖のやうに、『自分はあの仕事には過ぎる人間だ』といふ。天地開闢以來、仕事に過ぎた人間は一人だつてゐない筈だ。まして、嘴の黄色い青年に、そんな生意氣の言へる資格のあるものでない。彼等は何れ遠くないうちに、仕事の方から拋り出されるに違ひない。

第七十六條　愛人第一の男と結婚す可らず

『神様よりもあなたを愛する』と言はれたとて、それで有頂天になつてはならぬ。神よりも妻を愛するやうな男は、どうせ碌な人間ではない。彼等に愛さるれば愛されるほど、妻は不幸な境遇に陥つてゆかねばならぬ。輕薄青年の口車に乘つて、多幸なるべき一生を、棒に振つてはたまらない。良人に過ぎたる愛を求めては不幸である。

第七十七條　同じ仕事に永續せぬ男と結婚す可らず

會ふ度毎に仕事が變つてゐたり、勤先がちがつてゐたりする男子がある。かくの如き男子は、忍耐力の缺乏と能力の不足を證明するものだ。人との調和のできぬのも、この種の男の持前である。こんな男を良人にもてば、一生を不安から不安へと送らねばならぬ。少しばかり人あたりがよくても、信じて結婚などしてはならぬ。

第七十八條　戀愛に熱中しすぎる男と結婚す可らず

戀愛はもと〳〵人を熱中させるもの。それを熱中したとて當然かも知れぬ。けれども前途有望の青年には、戀愛以上の偉大なものが用意されてあるべき筈だ。向上への熱望がそれだ。青年特有の希望と野心とがそれだ。それを忘れて戀愛のみに熱中する者の將來に、何の期待も持つてはならぬ。まして良人などに選んではならぬ。

第七十九條　野卑な作法の男と結婚す可らず

宮中の式部官のやうに、作法萬能であれといふのではない。たゞ心の用意からあらはるゝ良き作法、良き品格の男子でなければ良人にしてはならぬ。作法の卑しい男子は、その心もまた卑しいにきまつてゐる。どことなしに優雅な、落着きのある男子こそ、選んで良人とすべき人である。さて、そんな男子は、どこにゐるであらう。

第八十條　相手の顔を正視せぬ男と結婚す可らず

相手の人を正視せぬ人間は、昔から腹黒い人といはれてゐる。見合の日だけを標準としては當らぬかも知れぬが、相手の目に注目しつゝ話すのが正しい禮儀である。また後暗いことのある人は、相手を正視せぬものである。澄みわたつた美しい目で、相手を正視する人なら、信じて間違ひなき人といふことができよう。

第八十一條　朝寐坊の男と結婚す可らず

朝の時間が金ならば、午後の時間は鉛にも劣る。それほど大事な朝の時間を、床の中で過すやうな男は、どうせ碌な將來が待つてゐない。たとひ、戀焦れるほどの男子であらうとも、朝寐男には未練なしに思ひ切つたがよい。その代りに、早起きの青年なら、多少缺點があらうとも、良人として有望な將來が期待される。

第八十二條　早熟の男と結婚す可らず

大器晩成を望まなくとも、早熟した男子を良人にもつことは思ひとまつたが仕合せだ。蕾の立つた菜葉が食べられぬやうに早熟して早くも蕾の立つた人間ほど、始末の悪いものはない。青年らしくもなく、いやに大人ぶつたことの好きな男子の將來ほど、惨めなものはない。少くして戀に夢中になるものは、特に恐るべしだ。

第八十三條　戀愛の手負者と結婚す可らず

戀愛事件によつて手負となつた男には、とかく同情をもちたいのが、婦人の常である。その同情が嵩じて、結婚生活に入る人が少くない。戀愛に就ての大きい想出をもつ男子は、一人の妻を熱愛するのに骨が折れる。夫婦生活の上に躓きが起りがちである。自分以外の相手と、血を沸した經驗のない男をこそ選ぶべきである。

第八十四條　老人をいたはらぬ男と結婚す可らず

老人を少しもいたはらぬやうな男は、心を許してよい良人ではない。こんな男子は、自分の都合次第では、妻も子も眼中にない振舞をしかねまじき恐れがある。それよりも、多少不足なところはあらうとも、老人に親切な男子を選べば、家庭の良人としては安全で、幸福が保證される。さてこの種の男は、當節甚だ拂底である。

第八十五條　心附をはずむ男と結婚す可らず

宿屋に泊つても、カフェーに入つても、柄にもなく心附をはずむ男ほど、家庭的に不安なものはない。金滿家の一人息子であらうとも、良人にこの癖があれば妻は家計に苦しまねばならぬ。まして、收入さほど多からぬ月給取の場合、妻の苦惱は尙更である。外では女給を喜ばせ、内では妻に手鍋さげさせることも、敢て稀しくない。

第八十六條　親戚を誇る男と結婚す可らす

三井や岩崎が叔父であらうとも、獨立心の強い男子には、それが、何の誇であり得よう。『私の親戚には誰がある』などゝ、暗にそれを肩に着て、自分の誇にするやうな、そんな意氣地なしの青年は、憐んでやる分にも、婚約してはならぬ。こんな男と生涯の道連にでもならうものなら、罪もない親戚を共に怨むやうな時が來る。

第八十七條　家を留守にする男と結婚す可らず

家にばかりへばりついてゐる老人じみた男がよいといふのではない。家を愛し、家を樂しまぬ男は、社會的にどんな必要があらうとも、妻にとりては不必要なものが多い。政治家や實業家に多い型が是だ。家に尻の落ち着かぬ青年は、家庭をもつても、束の間の後は、用にかこつけて家を明ける良人となる。揚句の果には妻をヒステリーとする。

第八十八條　貞潔を輕んずる男と結婚す可らず

妻を心から愛するならば、妻の貞潔を最も重んずべきである。結婚前に妻の貞潔を奪はんとする男子は、良人でなくて狼だ。かくして良き家庭が創られる筈がない。男子の無作法を、『自分に對する熱愛のため』などゝ己惚れたら、よつぽどお目出度い話である。婦人を侮辱する男子の態度は、斷じて許されぬ一點である。

第八十九條　生命保險に加入せぬ男と結婚す可らず

『結婚に生命保險など緣起でもない』といふ婦人があつたら、その方がよつぽど不緣起だ。不時の用意をせぬ人の結婚生活ほど、大きい冒險は世にない筈だ。生命保險に加入することは、不時の經濟的準備となると共に、最も圓滑に良人の健康狀態を知る方法である。それが出來ないほどなら、妻の幸福を希望する誠意ある良人ではない。

第九十條　短氣な男と結婚す可らず

短氣は男の持病のやうにいふ。この短氣病のために流す、妻の涙を集めたら大河をなすであらう。妻を撲つておいて、それを短氣のせゐにしてしまへば世話はない。短氣も原因をたゞせば我儘からだ。こんな我儘ものを、良人にしてはならぬ。子供の父としてはならぬ。『短氣が男の持病なら』『短氣の男を良人には御免蒙る』のは、こちらの勝手だ。

第九十一條　家業を馬鹿にする男と結婚す可らず

先祖が一生懸命で築いた家業のお蔭で、自分が育てられてゐながら、とかく家業を輕蔑したがるのが、大家のお坊ちやんに多い。百姓の伜が官吏になつて惡いのではない。官吏になつても、父祖の家業であつた百姓を重んずるほどの、重厚な男子でありたい。家業を輕んずる伜の末路は、いつでも破綻のほかに道はない。

第九十二條　自分の地位を誇る男と結婚す可らず

自慢病は誰をでも冒し易く、冒したが最期、必ず亡してしまふ。前途遼遠なるべき青年にして、早くも自慢病に罹つてしまつたら、哀れ果敢なき次第である。梅毒は三期にならぬと鼻にはこないが、自慢病は初期から鼻に來て、鼻高々と振舞ふから、初心な處女でも、少し注意すれば看破することができる。ゆめ警戒を怠つてはならぬことだ。

第九十三條　同情で持掛ける男と結婚す可らず

『同情が嵩じて戀になつた』などゝいふ。ほんとの同情が戀にまで成長したのならともかく、男といふ者は同情の形に見せかけて、女を掌中に丸めるほど、奸智に長けたものである。不遇に泣く婦人が、男のために更に悲しむべき不遇の底に陷りがちなのも、男の同情の手にうま〳〵かゝるからである。男の同情は半分以下に割引きせぬと危險至極。

第九十四條　戀文の上手な男と結婚す可らず

戀愛は一度は許されるものださうだ。けれども、二度はすべからざるものだといふ。この說に從へば戀文も一度は書いてもよい筈。が、二度は書かぬがよいといふ結論になる。戀文を上手に書く男は、この禁制を犯したものと見て間違ひがない。かくの如き男子は、家庭を持つてからでも、またも戀文を書くべき危險性が多い。

第九十五條　女に騷がれる男と結婚す可らず

女からちやほや言つて騷がれるくらゐの男を、宿の人とするのも、女一生の誇であらう。浮氣な美男子を射留めて誇つた女の、後日物語はいつても悲劇に終つてゐる。第一かういふ男は結婚しても、女の誘惑にかゝり易い。一人の妻に執心することを、損でもしてゐるやうに思ひ易い。良人としては至つて危險性が多過ぎる。

第九十六條　離婚した妻の後釜となる可らず

一概には言へぬが、先妻を離縁した男子の後妻となることは十二分の警戒を要する。妻に缺點のある場合もあらう。けれども良人には缺點がないと保證もできまい。惡妻の後に良妻として立ち得れば仕合せだが、そんなにうまく問屋の卸さぬのが世の中。避けて結婚されるものなら、避けて嫁くのが安全第一。

第九十七條　女癖の惡い男と結婚す可らず

男癖の惡い女のあるやうに、女癖のよくない男も甚だ多い。女に對する自制心の無いためであらう。この癖は若いときから現はれる。結婚して治るものもあるが、多くは慢性で治り難い。青年時代に女で失敗した男は、結婚後も必ずといつてよいほど確實に、女のために失敗するものである。こんな男は、桑原々々、近寄らぬが身の安全。

第九十八條　理由不明の獨身男子と結婚す可らず

やむを得なければ生涯獨身も結構。ところが理由不明の獨身男子は、良人としては不氣味なものだ。惡疾のためか、偏屈のためか、それとも氣儘のためか、とにかく夫婦生活に適せぬ者が多い。かういふ男を慰むるために、身を犧牲にしての結婚ならともかく、普通の夫婦生活の幸福は望まれない。尤も似た者夫婦なら、それもよからう。

第九十九條　老成した名士と結婚す可らず

結婚のその日から、何某令夫人と言はれるやうな、玉の輿こそ婦人が乘りたいと願ふところである。けれども、乘つてはならぬ。たとひ良人が善良な人であつても、彼女には家庭的の幸福は與へられぬ。なぜなら、良人は既に社會の所有だから、それよりも、無名の青年と共に、順を追うて地歩を築いてゆくが、氣苦勞がなくて樂しみが多い。

第百條　美貌好みの男と結婚す可らず

どこそこで見染られての求婚とでもいへば、美貌に自信のある婦人は大きい誇をもつて應ずるであらう。美貌に自信をもつも悪くはない。悪いのは求婚の相手だ。容貌の一點で家庭の伴侶を選ばうといふが間違ひ至極。美貌で結ばれた夫婦の仲は、美貌が衰へれば愛も萎む道理。夫婦の契りは花ばかりではない。老後の實こそ最後の願ひだ。（完）

昭和二年三月十八日印刷
昭和二年三月三十日發行

定價六拾錢

主婦之友實用百科叢書
——（23）——
百人選擇の祕訣百ヶ條

□不許複製□

編纂者　東京市神田區駿河臺南甲賀町十七番地　主婦之友社編輯局
發行者　東京市神田區駿河臺南甲賀町十七番地　石川武美
印刷者　東京市牛込區榎町七番地　竹內喜太郎
印刷所　日清印刷株式會社

發行所　東京市神田區駿河臺　株式會社主婦之友社
振替東京一八〇番

主婦之友

巻頭から最後の一頁まで一氣に讀んでしまへる雜誌は『主婦之友』を措いて他にありますまい。發行部數において東洋第一の『主婦之友』はその充實せる內容に於いても、到底他の追從を許さぬものがあります。また飽くまで讀者を本位とする『主婦之友』は、その記事の徹底的に親切なる點に於いても、廣く一般から認められてをります。試みに月々掲載さるゝ家庭記事の一つについて御覽ください。如何に家庭生活の實際を重んじてゐるかゞお解りになることでありませう。言ふべくして實行しがたい、所謂言葉の遊戯は、たゞの一頁も『主婦之友』には掲載されてをりませぬ。何卒最近號を一冊だけなりと御覽ください ませ。事實は千鈞の重みをもつて、之を證明いたします。一冊定價五十錢、半年分參圓廿錢、一年分六圓廿錢、外國行一年分八圓です。(但し特別號の代金並に送料を含む)御購讀のお申込は、最寄の雜誌店か、或は葉書を以て直接本社宛お申越を願ひます。

東京駿河臺 主婦之友社發行 振替東京一八〇

(御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください)

主婦之友社編輯局編

主婦之友實用百科叢書

叢書發行に就て

(一) これまでの書物は、一つの必要なことを知るために、多くの不必要なことまでも讀まねばなりませんでしたが、この叢書は必要なことだけを、手早く知ることができます。

(二) これまでの書物は、廻りくどく、わかりにくい說明をしてあるために、讀むに骨が折れましたが、この叢書は恰も物語でも讀むやうに、樂に讀まれるやうに書いてあります。

(三) これまでの書物は、定價が高いために讀みたいと思つても、讀めないものが少くありましたが、この叢書は一冊僅か六拾錢でありますから誰方にも讀んで頂くことができます。

(四) これまでの書物は、餘りに理論に偏してゐて、折角讀んでも實際の役に立たぬものがありましたが、この叢書はどこまでも實際の役に立つやう、特に注意を拂ひました。

(五) これまでの書物は、机の上で讀むには適してゐても、携帶して讀むのに不適當でありましたが、この叢書は氣のきいたキャッセル判で、携帶して讀むにも便利よく出來てゐます。

〔第一篇〕 現代婦人職業案內

職業に向はんとする婦人は、如何なる職業を選んだらよいか。就職についての手續は如何にしたらよいか。婦人の職業に關する一切の知識と心得等を全部網羅し、親切に述べてあります。

〔第二篇〕 毎日のお惣菜料理法

一年十二ケ月のお惣菜を、獻立から料理法まで詳しく書いてあります。『主婦之友』の料理記事が親切なやうに、この書の料理法も親切です。主婦の方は詳細に述べてあります。ぜひ御覽ください。

定價各冊金六拾錢・郵稅各冊金四錢

主婦之友社編輯局編

主婦之友實用百科叢書

〔第三篇〕ニキビ・ソバカス・療法

ニキビやソバカスを手軽に療治する方法を、詳しく說明してあります。また、ニキビやソバカスの、婦人はうとんなる化粧をすれば、いかに切に說いてあるのがこの書籍のまで調の特徴です。

〔第四篇〕草花の上手な作り方

草花の作り方を、どんな素人でも必ず失敗なしに出來るやうに手にとる如く親切に說いたのがこの書であります。家庭園藝を樂しんとする方は、ぜひこの一冊を伴侶として御覽ください。

〔第五篇〕テニスの上達法

テニスの心得なしには、社交の話もできぬ程、一般的の運動法です。そこに最も早く上達する秘訣と、一般的心得とを說切に述べたのが、この書であります。御覽ください。

〔第六篇〕家庭で實行される利殖法

どうしたら最も安全で、最も有利な利殖が講ぜられるか。それを手にとるごとく詳細に述べてあるこの書を御覽になれば、素人の知らないところに金儲法のあることを發見されませう。

〔第七篇〕良人操縱の祕訣百ヶ條

良人をして家庭を唯一の安住の場所とするには、妻にそれだけの心得がなければなりません。この書は夫婦和合の祕訣を親切に述べてある本で、家庭婦人として、ぜひ一本を備ふべきです。

定價各冊金六拾錢・郵稅各冊金四錢

（御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください）

主婦之友社へ御送金の節は

此の振替貯金用紙を御使用ください

『主婦之友』は皆様の御同情により、毎月新たに熱心なる愛讀者を加へてをります。今後も何うぞ引き續き御愛讀のほどをお願ひ申します。それにつけ、皆様にぜひとも御依頼申したいことは、『主婦之友』の豫約購讀の法を實行して頂きたいのでございます。御近所に雜誌店のある方は、その雜誌店に『今後は毎月『主婦之友』を讀むから、發行したらすぐ届けて欲しい』とお申込みになれば、大抵の雜誌店では毎月缺かさず、お手許までお届けいたします。若し雜誌店に不便な方は、本社宛に半年分三圓廿錢なり一年分六圓廿錢なりの雜誌代を添へてお申込みになれば、毎月發行早々に第一番に御郵送いたします。この振替用紙を御使用ください。主婦之友代理部も、確實で重寶な家庭用品その御送金の際には、ぜひ本誌の『代理部取扱品』を御參考ください。取扱品は本誌の『代理部取扱品』を御參考ください。

新刊
書籍七篇
良人操縦の秘訣百ヶ條
（御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください）
得がたいものは失敗されません、この書は夫婦和合の秘訣を説切に述べてあるので、家庭読本として一本を備ふべきです。
鈴

欄外注意事項に反するときは**郵便局**にて**受付**を**斷**ることあるべし

監査票			
局番號印	受付番號		
口座番號	東京一八〇番		
加入者氏名	株式會社主婦之友社		
※一金			
拂込人住所氏名	※		
受付局日附印		口座所管廳日附印	

六ヶ月保存

數字は必ず**楷書**、**文字**は**正確明瞭**に書くこと

拂込票	
口座番號	東京一八〇番
加入者氏名	株式會社主婦之友社
※一金	
拂込人住所氏名	※
受付局日附印	口座所管廳日附印

一年保存

各票金高に**相違**なきことを**必ず確**むること

拂込通知票	
口座番號	東京一八〇番
加入者氏名	株式會社主婦之友社
※一金	
拂込人住所氏名	※
受付局日附印	口座所管廳日附印

数字は必ず楷書、文字は正確明瞭に書くこと

各票金高に相違なきことを必ず確むること

金額を訂正せざること

※印を附してある部は拂込人に於て記載すること

拂込票

口座番號	加入者氏名	※	拂込人住所氏名
東京一八〇番	株式會社主婦之友社	一金	※

受付局日附印

口座所管廳日附印

一年保存

拂込通知票

口座番號	加入者氏名	※	拂込人住所氏名
東京一八〇番	株式會社主婦之友社	一金	※

受付局日附印

口座所管廳日附印

六ヶ月保存

受領票

口座番號	加入者氏名	
東京一八〇番	株式會社主婦之友社	一金

受付局日附印

主婦之友社へ御送金の節は

此の振替貯金用紙を御使用ください

『主婦之友』は皆様の御同情により、毎月新たに熱心なる愛讀者を加へてなります。今後も何うぞ引き續き御愛讀のほどをお願ひ申します。それにつけ、皆様にぜひとも御依頼申したいことは、『主婦之友』の豫約購讀の法を實行して頂きたいのでございます。御近所に雑誌店のある方は、その雑誌店に『今後は毎月「主婦之友」を讀むから、お届け欲しい』とお申込みになれば、大抵の雑誌店では、「主婦之友」を讀むから、發行したらすぐ届けて欲しい』とお申込みになれば、大抵の雑誌店では、「毎月缺かさず、お手許までお届けいたします。若し雑誌店に不便な方は、本社宛に半年分三圓廿錢、一年分六圓廿錢なりの雑誌代を添へてお申込みください。毎月發行早々に第一番に御郵送いたします。その御送金の際には、この振替用紙を御使用ください。確實で重寶な家庭用品になれば、皆様から非常な御信用を博してをります。主婦之友代理部も、どうぞ御入用の品を取纏めて御註文ください。取扱品は本號の『代理部取扱品案内』を御覽になれば、詳細にて發表してございます。次ぎに雑誌代と一緒に纏めて御送金くださつてもよろしうございます。御送金の場合には、

（御用向はこゝへ詳細に御記入下さい。お記しがないと間違ができます。）

▲此の用紙にて送金と通信とができます◎文字は明瞭にお書き下さい。

主婦之友社（又は主婦之友社代理部）へ御送金なさる方は御覽ください

（一）この用紙の表面と裏面とに必要な事柄を記し、お金を添へて郵便局へお持ちになれば、そのお金は御用向を書いた紙片と共に振替貯金課を經て主婦之友社（主婦之友社代理部に御送金の場合でも、主婦之友社宛に御送金くださつてもよろしいです）に届きますから、當方では早速御註文の雑誌なり書籍なり又はその他の品なりを、取り揃へてお送り申上げます。

（二）この用紙を用ひて御送金になれば、爲替を組んで書留郵便にして出すと同じやうに、途中で紛失するやうな心配なしに、確實に主婦之友社（又は主婦之友社代理部）に送金することができます。若し途中で紛失するやうなことがあつても、後で調べて發見することができますから、その點は大層重寶で且つ安心であります。但しこの頃では郵便物が延着しますので、普通の郵便より**四五日間位おくれて到着いたしますから、その點は慾め御承知おきを願ひます。**

（三）この頃は郵便物の不着や紛失等の事故が甚だ多いので、互に迷惑を蒙ることが少くありません。

▲此の用紙にて送金と通信とができます◎文字は明瞭にお書き下さい。

使おを紙用替振の此に金送御ク外以件用の文註代代の品の部理代に際の文註御誌雜は又、もてつんせまひょかもつさだく金送御てしに

主婦之友社（又は主婦之友社代理部）へ
御送金なさる方は御覧ください

（一）この用紙の表面と裏面とに必要な事柄を記し、お金を添へて郵便局へお持ちになれば、そのお金は御用向を書いた紙片と共に振替貯金課を經て主婦之友社（主婦之友社代理部に御送金の場合でも、主婦之友社宛に御送金くださつてもよろしいです）に届きますから、當方では早速御註文の雜誌なり書籍なり又はその他の品なりを、取り揃へてお送り申上げます。

（二）この用紙を用ひて御送金になれば、爲替を組んで書留郵便にして出すと同じやうに、途中で紛失するやうな心配なしに、確實に主婦之友社（又は主婦之友社代理部）に送金することができます。若し途中で紛失するやうなことがあつても、後で調べて發見することができますから、その點は大層重寶で且つ安心であります。但しこの頃では郵便物が延着しますので、普通の郵便より四五日間位おくれて到着いたしますから、その點は豫め御承知おきを願ひます。

（三）この頃は郵便物の不着や紛失等の事故が甚だ多いので、互に迷惑を蒙ることが少くありません。

それで、若しも主婦之友社（又は主婦之友社代理部）に御送金になつて、相當の時日が經つても御註文品が届かなかつたり、雜誌の發行日（大抵毎月十五日頃發行します）が來ても雜誌が届かなかつたりしたときは、御面倒ながら御地の郵便局をお調べのうへ、一應當方へ御照會ください。さすれば事故等を調べるにも一層都合がよろしうございます。

御照會のときはお拂込の月日、郵便局名、金額、品名等詳細にお知らせください。

主婦之友

〔第八篇〕夏の男兒洋服の作り方

〔第九篇〕夏の女兒洋服の作り方

（御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください）

定價各冊金

文品が届かなかつたり、雑誌の發行日（大抵毎月十五日頃發行します）が來ても廣告が届かなかつたりしたときは、御面倒ながら御地の郵便局をお調べのうへ、一應當方へ御照會ください。さすれば事故等を調べるにも一層都合がよろしうございます。

御照會のときはお拂込の月日、郵便局名、金額、品名等詳細にお知らせください。

主婦之友社編輯局編

主婦之友實用百科叢書

〔第八篇〕夏の男兒洋服の作り方

洗濯が自由で、經濟で、涼しいといふ三條件を兼ねた一般向きの男兒服や、直ぐ作れる男兒の作り方を、讀むのが本ぐ書方々説明してあるので、一目で夏の重寶な書物です。必讀すべき

〔第九篇〕夏の女兒洋服の作り方

女の子を、美しく涼しさうに見せるのは夏の洋服です。そのうえに、洋服を誰でも手軽で出來るやうに、型の取り方から縫ひ方までを手にとるやうに書いたのが本書です。形のよい服を安價に着られると評判です。

〔第十篇〕全國溫泉旅行案内

著名な溫泉でも、さて行つてみれば實に案外のところがあります。本書は一々實地踏査をして、出來るだけ正確を期したもの。手頃の溫泉旅行案内書は直ぐ皆樂のお役に立ちます。

〔第十一篇〕水泳の上達法

眞夏の日中、海に川に游泳する樂しみ。それは男子と子供ばかりの運動ではなく、廣く若い婦人の間に行はれてきました。本書は上達の秘訣や注意を正式の水泳法と一切の水泳法とを説明し盡したものです。

〔第十二篇〕盛花と投入の生け方

最近再び生花が盛んになつてきました。これは日本の家庭や婦人の嗜みとなつてきたからです。新しい生花の趣味深く、投入にも就てかぬ良書です。花と、本書は唯一の好手引です。

（御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください）

定價各冊金六拾錢・郵税各冊金四錢

主婦之友社編輯局編

主婦之友實用百科叢書

〔第三十篇〕
結婚禮式一切の心得
結婚に必要な一切の心得を網羅したものは本書だけです。これさへあれば大切な見合も、ひにも迷はずにまた結納も、少しも滞なく、席に、結婚を前にした男女が、または媒介者の必讀書として好評。

〔第四十篇〕
新式和服裁縫の祕傳
（第一巻 一つ身より四つ身までの仕立方）
女學校など一通り裁縫の手解きをしたが、實際には少し役立たぬと不平を仰言る方は、まづ本書を御覧ください。第一巻は一つ身より四つ身までの仕立方について親切に説明したものであります。

〔第五十篇〕
新式和服裁縫の祕傳
（第二巻 本裁と長着一切の仕立方）
平常着は自分で縫つても、外出着になると他人に任せる方が少くありません。縫ひ方は、そのポイントを詳しく説明してあります。第二巻は本裁と長着一切の仕立方を詳述したものであります。

〔第六十篇〕
新式和服裁縫の祕傳
（第三巻 襦袢と羽織と帶の仕立方）
たとひ布地が粗末でも、仕立方が拙ければ、ぐつと見えます。第三巻は羽織つきて見えます。第三巻は襦袢と引立てる方法を詳しく説明した最新式の仕立方を何人にもよく解るやうに説明したものであります。

〔第七十篇〕
新式和服裁縫の祕傳
（第四巻 袴と被布と婦人コートの仕立方）
袴と被布と、婦人のコートについて、本書の如く詳しく、親切に説明したものは、毎月發行する雜誌の挿繪を入れて仕立て方の大體が解るほどであります。

（御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください）

定價各冊金六拾錢・郵税各冊金四錢

主婦之友社編輯局編

主婦之友實用百科叢書

〔第八十篇〕
新式和服裁縫の祕傳
（第五巻 襲ね物と模様物と比翼の仕立方）
一年二年と讀く講義録でも、その内容は、本書の如く詳しく、親切に説明したものは、一巻も及ばぬ。第五巻は、襲ね物、模様物、比翼等の仕立方を、何人にも納得ゆくやうに説明しました。

〔第九十篇〕
新式和服裁縫の祕傳
（第六巻 夜具どてら等寢具一切の仕立方）
夜具は自分で仕立るものでないやうに考へてゐる方が少くありません。第六巻を一讀、夜具がぬ。何人にしかも經濟で氣持のいゝ夜具が容易に作れます。尚ほどてらその他寢具一切の作り方が解ります。

〔第十二篇〕
野菜の上手な作り方
翻味と實益を兼ねた野菜の栽培法を述べたもの。自分の手一つで作つた野菜を、食膳に上すまでの味を御一讀はうとする方は、まづ本書から收穫の下し方から收穫の注意まで、詳述した軽妙の參考書。

〔第一廿篇〕
多産鷄の飼ひ方
最も利益の上る鷄の飼ひ方は、本書を一讀すれば解ります。卵生の知識を收めたものが本書です。一切の翻味の繁鷄に必要な飼ひ方は、まづ本書を一讀すれば解ります。卵生の知識を收めたものが本書です。一切の翻味の繁鷄家も是非御一讀ください。

〔第廿三篇〕
良人選擇の祕訣百ケ條
牛、馬、羊、掛買ふにも血眼になる婦人が、一生に唯一度の婚選びに、一生の心の奥に無關心なのは、どうしたことか。暗闇あり、教訓あり、敬訓あり、皮肉あり、百ケ條の祕訣は、到ところ好評の某名士。著者は現代の博し、てゐます。

（御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください）

定價各冊金六拾錢・郵税各冊金四錢

婦人の新教養

徳富蘇峯著

（定價壹圓八拾錢・送料八錢）

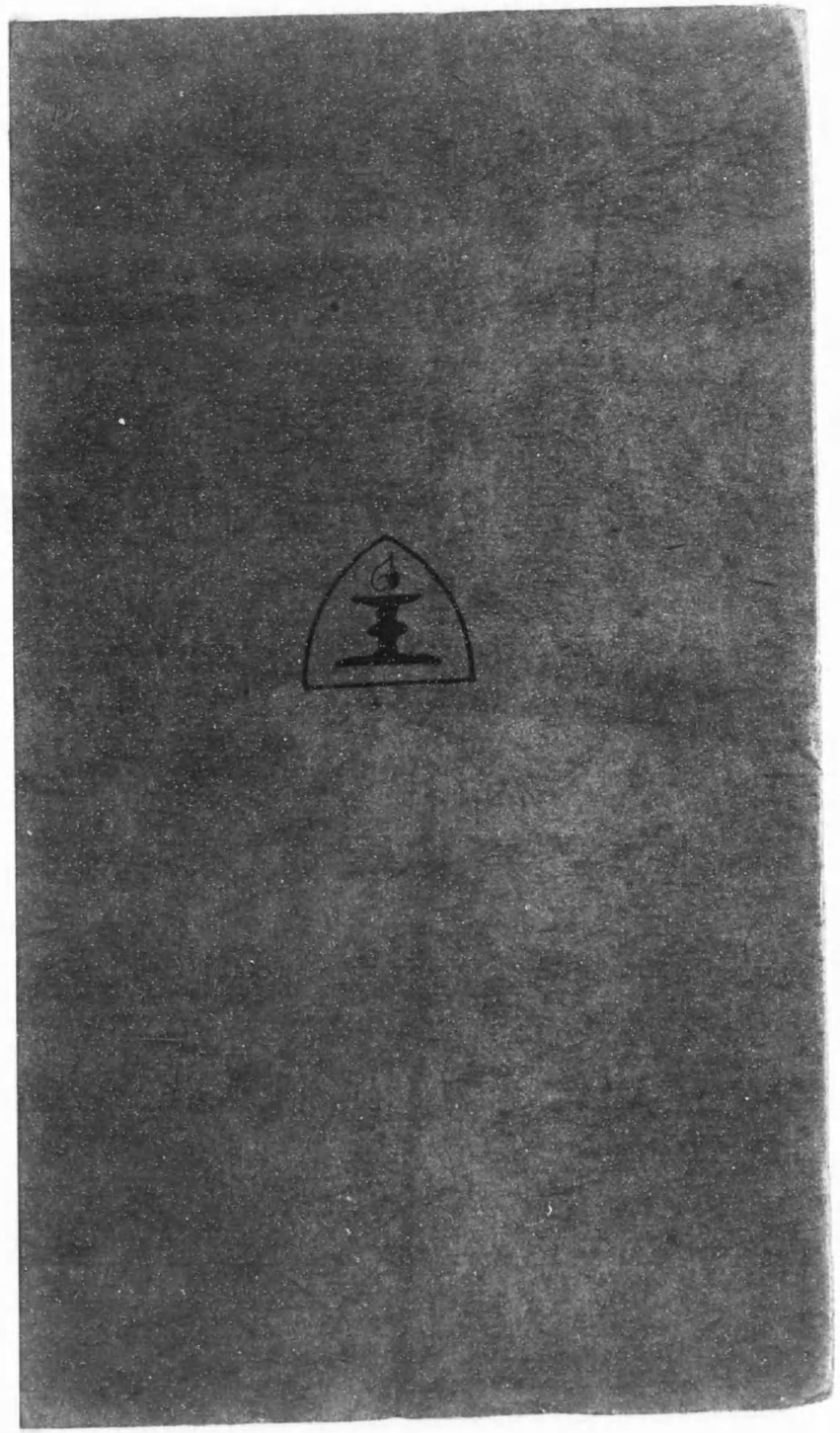
一代の文豪として、また人格の人として著者蘇峯先生の盛名は今更、こと新しく申すまでもありませぬ。先生はまた、婦人の味方として、その最も同情ある理解者として、常に推さるゝところの人であります。本書は、歴史、宗教、文學、政治等あらゆる方面より、現代婦人の進むべき道を示し、方針を明にしたるものであります。殊に書中、ロマノフ王朝最後の悲劇を引證して、婦人の覺悟を説いたる一篇の如き、涙なしに讀了すべからざる雄篇として廣く推奬されてをります。是非御一讀を願ひます。

不運より幸運へ

石川武美著

（定價七拾錢・送料四錢）

誰か幸運を求めざるものがありませうか。誰か不運より自らを救はんと、懸命の努力をせざるものがありませうか。著者は、逆境より身を起し、『主婦之友』を經營して今日に及んだ力行の人、本書は實に、その辛苦の躬驗を錄したるものともいふべく、その一言一句は直に力となり、光明とならざるものはありませぬ。失意のどん底に自らの不運を歎く人はまづ本書を御一讀ください。眞に同生の力を與へるものは本書であります。生きたる修養書として、到るところに非常なる好評を博してゐます。

發行所　東京駿河臺　主婦之友社　（振替壹八〇番　東京）

終